

# 京都府の気候変動（真夏日他）これから（中程度の温室効果ガスの排出が続く場合）

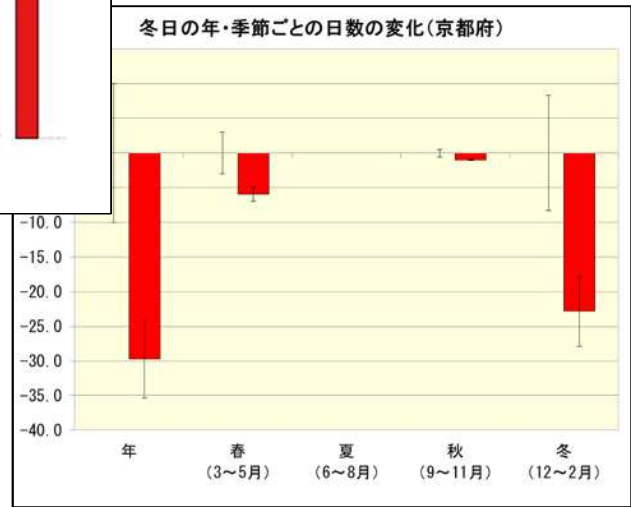
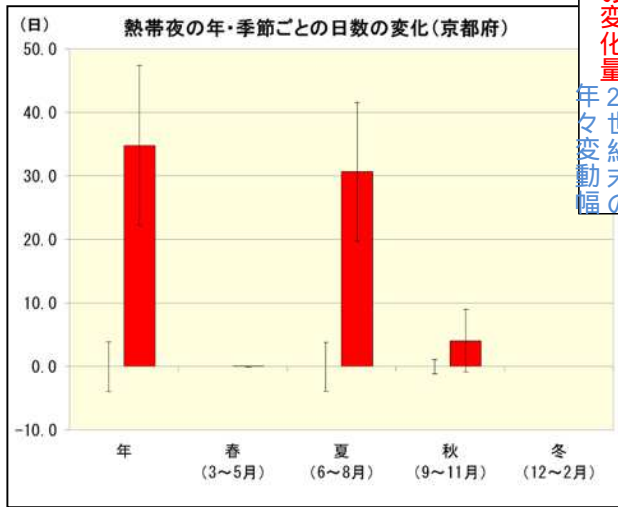
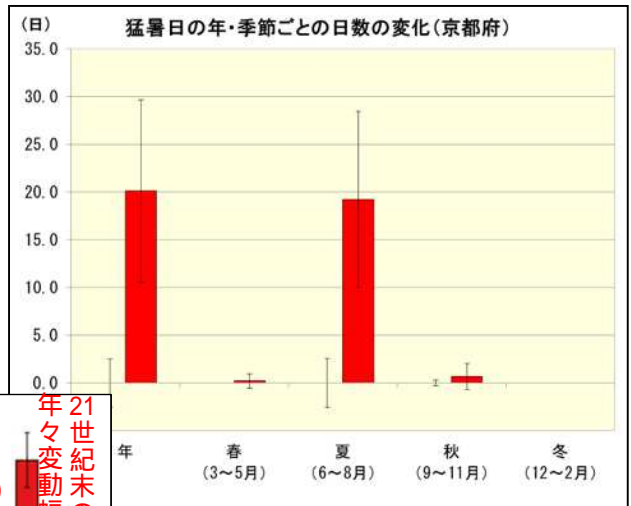
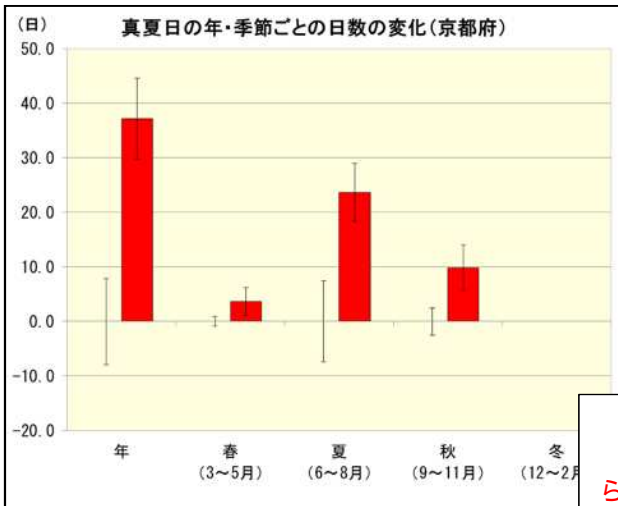
## 【京都府における真夏日・猛暑日・熱帯夜・冬日の将来予測】（将来気候と現在気候との差）

棒グラフが現在気候との差、縦棒は年々変動の標準偏差（左：現在気候、右：将来気候。）を示します。

京都府における真夏日・猛暑日・熱帯夜・冬日の日数について、20世紀末から21世紀末の変化を予測しました。

21世紀末における真夏日（日最高気温30℃以上の日）の年間日数は、20世紀末に比べ、40日近く増加する予測となっており、猛暑日（日最高気温35℃以上の日）の年間日数も20日増加が予測されています。

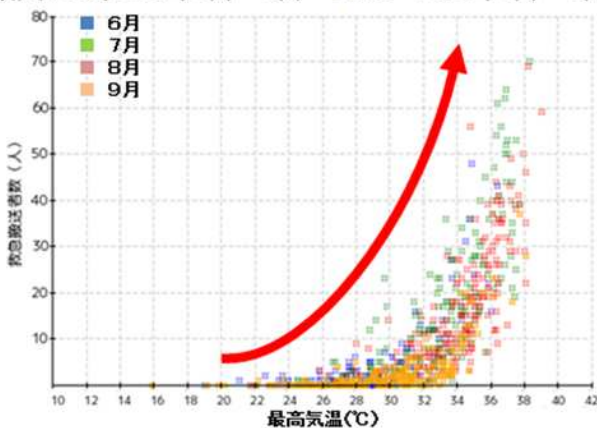
寝苦しい夜とされている熱帯夜（日最低気温25℃以上の日）の年間日数は、30日を超える増加が予測されます。冬日（日最低気温0℃未満の日）の年間日数は減少し、冬日を観測しない年も出現することが予測されます。



21世紀末の年々変動幅

20世紀末の年々変動幅

京都の最高気温と京都府熱中症救急搬送者数との関係  
期間2008,2009年7月～9月、2010～2014年6月～9月



京都では、気温が高くなる初夏から初秋にかけて、熱中症にかかりやすくなります。特に、最高気温35℃を超えると、熱中症による病院への搬送者が非常に多くなります。

21世紀末には、今以上に猛暑日の日数の増加が予測されることから、熱中症対策も重要になります。